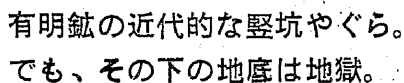


次の手記は 有明鉦のとする職場から寄せられた、期末手当をめぐる問題を語り合つた声だ。うっとうしい梅雨空をながめながら、「期末手当は取つてもらえるとじゃろか」と、職場では半ばあきらめ気味に語り合つている——と手記にあったが、はたして率直な声は何を訴えているか。

三化の期手にびっくり
俺げん組合も炭労もなか

見が添えられていた。

会社は、もうかれはその事実をひたかくし、不況だといっては国家から生活保護をとります、もうかることばかり。



記念のタオルやバツヂをもらつたが、そんな金があるならもっと有効に使つて、組合員が本気でよくこべるような闘争でも組んでくれた方が、よほど三十三周年記念にふさわしいことじゃないか。要求額も少いが、どうし、こんなにせつぱつまってから要求するんじゃうか。

Cさん　近所の子どもが三井東庄化学に勤めて五年。期末手当の明細を見せてもらったが

CO 闘争ささえて12年目

COオルグ活動

三池労組は全国の労働災害、職業病、公害の闘いと連携を強めることに努力しながらＣＯ闘争・命を守る闘いをすすめているが、この闘いを長い年月にわたってささえてきたＣＯオルグ活動が今年もいよいよスタートする季節がきた。活動動員表は、別表の「本年度ＣＯオルグ計画表」にもとづいて行われるが、今年は計画することができなかった埼玉、群馬、茨城の三県を除いた都道府県に広くわたって展開することになり、何はさておき活動の成功を心から祈りたい。

今年もまた三池労組は、COオルグ活動がスタートする季節を迎えた。この七月十六日から始まる北海道をめざす、四山指導部の羽来年の三、四月までの約九、十カ

今年のＣＯオルグ活動計画表

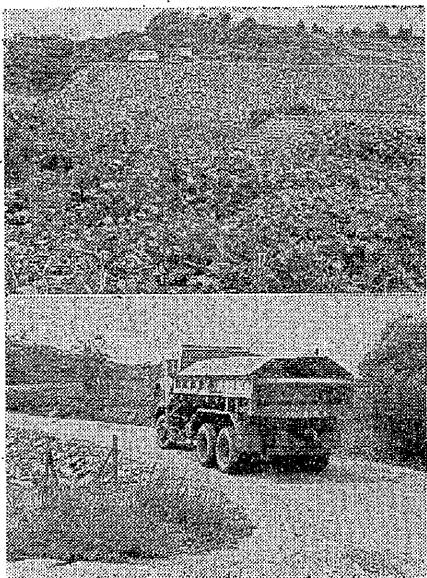
第一隊		第一班	北海道	七月二六日~同二九日(四山)
		第二班	青森	八月一日~同五日(右同)
		第三班	北海道	七月二六日~同二九日(三川)
			秋田	八月一日~同二日(右同)
		第二隊		
		第一班	岩手	九月一日~同六日(四山)
			宮城	九月八日~同二七日(右同)
			福島	九月二九日~一〇月一日(三川)
			栃木	一〇月三日~同三日(右同)
			山梨	一〇月二五日~同八日(本所)
			長野	一〇月二〇日~一二月一日(右同)
			岐阜	一二月四日~同三日(四山)
			愛知	一二月二五日~同八日(右同)
			兵庫	一二月一日~同二五日(三川)
		第二班	山形	九月一日~同五日(本所)
			新潟	九月八日~同二九日(右同)
			富山	九月二日~同三〇日(三川)
			石川	一〇月二日~同七日(右同)
			福井	一〇月九日~同二五日(右同)
			滋賀	一〇月二七日~同二日(右同)
			京都	一〇月二日~一二月四日(右同)
		第三班	奈良	一二月五日~同八日(右同)
			大阪	一二月一〇日~一二月八日(右同)
		第四班	千葉	九月一日~同二六日(港務)
			東京都	九月二七日~同二六日(右同)
			右同	九月二七日~一〇月六日(四山)
			神奈川	一〇月七月~同二八日(右同)
			静岡	一〇月二〇日~一二月八日(三川)
			三重	一二月一〇日~同二〇日(右同)
			和歌山	一二月二三日~同二八日(右同)
			(ここから来年となる)	
			愛媛	一二月九日~同二九日(港務)
			香川	一二月二日~一二月九日(右同)
			徳島	一二月二日~同二六日(右同)
			高知	一二月二八日~同二九日(右同)
		第四班	島根	一〇月二日~同八日(三川)
			鳥取	一〇月二日~同二五日(右同)
			岡山	一〇月二七日~同二五日(四山)
			山口	一〇月二七日~一二月五日(右同)
			広島	一二月七日~同二五日(右同)
			※なお、九州各県は別に計画。	

今年度のＣＯオルグ活動を、右の計画にもとづいて実施しますので、各関係都道府県の皆さん、くれぐれもよろしくお願いいたします。

これは迷惑なボタ捨て
荒尾市民の間で問題化

三井鉱山は
今、三井グリ
ーランドの
西端部で、宮
内杜宅の東辺
部にほど近い
谷間に、ボタ
を捨ててい
る。

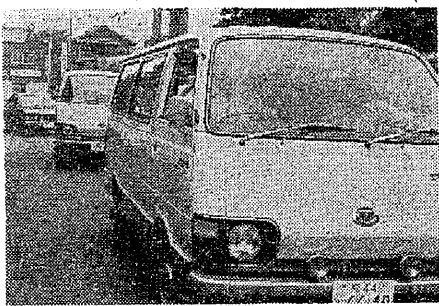
それが今、
荒尾市民の間
で問題になっ
ている。何し
る日に何台捨
てるのかわか
らないが、幹



今日もボタを積んだ大型ダンプは走っている。

.....

大型ダンプで運び捨てる



ふり返ると、COオルグ活動は昭和四十三年の十月にスタートし

まず福岡県内の活動から

た。同じ厳しい職場環境のなかで働く労働者仲間と呼びかけ、三池労組がＣＯ闘争・命を守る闘いをすすめるのを、カンパをもってささぐってもらおう、ということから決意した活動で、はじめは福岡県

闘争・命を守る闘いをすすめてきたばかりでなく、同時にこの活動を通じてながら全国のあらゆる職場の労働者仲間と交流を深め、多様なそれらの闘いに学びあひつぎたのである。

言の旨を存し、男力なり。一見聞きたに過ぎなかつた。以後足を九州一田に。さらに次に次は総評・東京地評の援助を受けて、同地評傘下の各組合を対象に活動を展開。ついには沖繩を含む全都道府県にまでその波紋を広げていくことができた。

組合本部前を出発する第一隊。北海道は遠いが……

して決して忘れてはならない。また、だからこそ常に団結を維持して闘いを強めていく責任のあるところとしよう。

連帯に団結で
こたえよう